

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(つながり・かかわり)

## 「高知市こども劇場 子育て・親育ち応援プロジェクト」事業

### 人とつながることで喜んだり、癒されたりしながら 子どもも親も成長してほしいという願いを込めて

「少子化の影響か、大人の干渉が強すぎて、子どもたちは自分の力で考え、行動する機会を失いつつあるのではないか。また、孤独な子育て環境のなかで、親は自分という軸を失いつつあるのではないか。」そうした問題意識を持ちながら活動を続ける「高知市こども劇場」が、コミュニケーションをキーワードに親子の育ちを応援する事業に取り組んだ。



未就学児とその親を対象とした人形劇を告知するチラシ



子育て中の親を集め開催した座談会

### 子どもが自ら育つ力を手助けすることで 大人もまた自分を育てていく契機として

自分の感情を把握・制御する能力や、他者を共感的に理解してコミュニケーションを築く能力などを示すEQ(心の知能指数)と呼ばれるものがある。その発達には小さいうちからの様々な体験が関与すると言われ、こと対人との遊びの経験や芸術にふれる機会が大切だとされている。

1971年に高知市で結成された「高知市こども劇場」(2005年にNPO法人格取得)は、子どものための優れた舞台芸術の鑑賞活動、創造表現をする・遊ぶ・自然とふれあうなどの体験活動、季節行事や学習会などの地域交流活動を主な柱に活動をしている団体である。こうした活動は、いずれもEQの発達を促すものと言えるだろう。

同団体では昨年、AJOSCの助成を活用して、「高知市こども劇場 子育て・親育ち応援プロジェクト」という事業

を実施した。「子どもは受動的に育てられるだけの存在ではなく、自ら育っていく力を持っています。その力を大切にしたい。また、親をはじめとする周囲の大人たちがそれを手助けすることで、自分たちも子どもと一緒に育つことができる。それを子育て・親育ちという言葉に込めました」と、理事長の手嶋亜古さんは話す。

今、子どもも親も自らが育っていくための「人とつながるコミュニケーション力が欠けている」と、同団体のメンバーは口々に言う。

テレビゲームやスマートフォンなどの情報ツールの普及がそれに拍車をかけ、子どもたちは戸外で友だちと遊ぶ機会が減り、親も子育てにおいて孤立している。そうした状況を観劇や遊びを通して変えるための一環として、同団体は「子育て・親育ちプロジェクト」に取り組んだ。

### 「感じる つながる おやこの時間」と 「感じる つながる あそびの時間」を実施

プロジェクトは大きく2つに分かれ、昨年初めて実施されたのが、「感じる つながる おやこの時間」である。これは同団体が結成以来こだわってきた「生の舞台」を通してコミュニケーション力や共感力を育むというもので、今回は未就学児とその親を対象に、人形劇団ひばりあむによる「こいぬの兄妹チップとチョコ」が上演された。11月18日～20日の3日間で、計299名の入場者を集めた。

また、人形劇の上演に先立ち、18日と19日の2日間、子育て中の親たちを集め、劇団主宰者の永野むつみさんを囲んで「子ども自身が育む幸せに生きるチカラ」という座談会を開催した。話したり、聞いたりして人とつながることで、子育てが少しは楽になる、前向きになれることを伝えたかったと、メンバーは話す。両日で計48名の参加者があったが、永野さん自身の子育ての話や上演の際に出会う子どもたちの様子を聞き、参加した親たちには心に響くものがあった様子だったという。

プロジェクトのもうひとつは、「感じる つながる あそびの時間」と題されるもので、プレイアドバイザーの中市真帆さん、子どもミュージカル劇団を運営する田村千賀さんを講師に、小学4～中学3年生向けの「カン・ガク」、小学1～4年生向けの「めざせ!あそびマスター!!2」という2つのワークショップを実施した。

前者に参加したのは、小学4年生の女子4名。8月25日～27日の3日間、1日6時間ずつ、演劇的手法を取り入れた表現遊びを中心に行い、最終的には自分たちで話し合っただけで決めた『中学校ダンス部』というお芝居を保護者の前で発表した。後者には小学校低学年の19名が参加。10月9日には室内でピンポン玉を使った創作遊び、翌10日には缶蹴りオニに似たボコペンという遊びを屋外で行った。子どもたちは自分たちでルールを発展させるなどの工夫を凝らし、「遊び切った」という達成感や爽快感に包まれていたという。なお、子どもたちがワークショップに取り組んでいる間、保護者による交流会も開催され、子育てに関する日ごろの思いを語り合った。



演劇的手法を取り入れた表現遊びワークショップ



小学4～中学3年生向けに開催した「カン・ガク」

### 助成団体: 特定非営利活動法人 高知市こども劇場

<http://npokgkochi.com>



### 芸術やコミュニケーションの力で子どもも大人も元気に

助成のおかげで、幼児に人気の高い人形劇の上演に加え、永野むつみさんにもお話を聞く場を設けることができ、大変感謝しております。また、「あそびの時間」も継続することができました。今回の事業で実行委員会を結成したことで、若い力も入り、それぞれ使命感も芽生えてきました。今後も子どもと親を支える活動を続けていきます。

NPO法人 高知市こども劇場  
あそびの時間実行委員長・大西朋枝さん(左) / おやこの時間実行委員長・中郷千尋さん(右)